

やまと 民俗への招待

鹿谷 熱

伊勢講という庶民の信仰集団を母体として、伊勢信仰にまつわる民俗を紹介してきた。どれも近世の明るく躍動的な庶民の生活文化の流れを受けたものだが、人の死に関するものであつた。

葬式が「友引」の日に重なった時、野辺送りの行列に、木槌を繩に付けて引っ張っていくという習俗のあることは県内で時折聞いたが、奈良市中清水町(現高畠町)では、元旦から13日までに不幸事が起ると、夜に家から1人ずつが出て、伊勢音頭を歌いながら、繩の先に付けたツチンコ(木槌)を曳いて歩いたといふ。明治42(1909)年生まれ、青田藤七郎さん談。

槌で豆を打つ=十津川村で筆者撮影



葬送と木槌と伊勢音頭

中清水町から南西の元興寺町では、元旦から15日までに死者が出るとさうに7人の死者が出ると

いつて畏れたという。長

している。

平成16(2004)年

と会場に来ていた市内公納堂町に住む近江昌司さん(天理大学名誉教授)から、後日次のような話を聞いた。

奈良県の民俗学の草分けである高田十郎は、大

シ、川ガナケレバ適宜ノ場所ニステル」とある。

1月25日に、伊勢音頭やおかげ踊りを特別公開す

正9(1920)年から後日次のような話を

ガリ版刷りで個人雑誌『なら』を刊行していた。

ここでは、伊勢音頭を歌う場面は出でこない。また槌一つを曳くところと

中で木槌が落ちると落

音頭が結ぶ大和と伊勢

正月5日に父親が亡くな

た。そこで私はこうした

奈良町の松の内の不幸事

に対する習俗や伊勢音頭

その第1号の「大和習俗

ノウチ」(15日以内)に記

15(1926)年生まれ

正月5日に父親が亡くな

った際に、町内の役員と

ガリ版刷りで個人雑誌

には『奈良町回顧』に記

正月5日に父親が亡くな

った時に、町内の役員と

『なら』を刊行していた。

正月5日に父親が亡くな

った時に、町内の役員と

音頭が結ぶ大和と伊勢

正月5日に父親が亡くな

た。そこで私はこうした

奈良町の松の内の不幸事

に対する習俗や伊勢音頭

音頭が結ぶ大和と伊勢

正月5日に父親が亡くな

った時に、町内の役員と

音頭が結ぶ大和と伊勢

正月5日に父親が亡くな